

令和7年度からの国際共同利用・共同研究拠点一覧(国立大学が中核の拠点)

通し 番号	大学等名(研究施設名)	国際共同利用・ 共同研究拠点名	研究施設の長 の氏名	研究分野 ^(※)	国際共同利用・共同研究拠点の概要 ^(※)	認定期間
1	名古屋大学(宇宙地球環境研究所)	宇宙地球環境研究拠点	塩川 和夫	数物系科学(地球惑 星科学、物理学、天 文学)、複合新領域 (環境学)	本拠点は、地球・太陽・宇宙を一つのシステムとしてとらえ、そこに生起する多様で複雑な現象のメカニズムや相互関係の解明を通して、地球環境問題の解決と宇宙にひろがる人類社会の発展に貢献することを目的としている。宇宙科学と地球科学を結びつける唯一の共同利用・共同研究拠点として、国際的な宇宙地球環境研究のハブとしての役割を果たし、関連するコミュニティと協力して国際共同研究を展開する。本拠地の活動を通して、特に、(1)国際学術会議傘下の組織と連携した国際プログラムの企画・推進の主導、(2)国内外の研究者コミュニティによる国際共同利用・共同研究の活性化、(3)国際共同研究を通じた若手人材育成、(4)宇宙科学と地球科学を結びつける本拠点の特長を生かした国際的な融合研究の推進、及び、(5)未解明事象のさらなる探求と社会的ブレークスルーの実現、が期待される。	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日
2	京都大学(基礎物理学研究所)	理論物理学国際研究拠点	青木 慎也	理論物理学	世界第一線で活躍する国内外の研究者が協働して先端的国際共同研究を推進するグローバルハブを構成し、優れた研究成果によって世界の基礎物理学を牽引する。同時に、拠点の活動を通じて理論物理学の次世代のリーダーとなる若手研究者を育成する。研究動向の把握や資金面での国際連携を強化しながら、理論物理学の全分野および量子情報を網羅する国内唯一の研究施設である優位性を生かし、ダイバーシティに配慮した拠点運営と異分野融合研究によって世界に先駆けた成果の創出や新分野の開拓を目指す。 学内外の研究者からなる共同利用運営委員会のもと、研究課題をコミュニティに広く公募し、外国人研究者の意見も取り入れて研究計画を決定する。国内外の第一線の研究者が本拠点に滞在する国際滞在型プログラムを重点計画とする他、国内の理論物理学を牽引してきた基盤的研究会の国際化を推し進める。また国内外の若手研究者に世界水準の講義や共同研究に参加する機会を提供して人材を育成し、将来に向けた国際ネットワークの構築を進める。国内の理論物理学コミュニティの多様なニーズに応じて計算機資源、滞在環境、支援機能を提供し国内の研究力向上にも引き続き貢献する。	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日

(※)各拠点から提出された内容どおり記載。